

講義年月日 2004年9月28日(火) -
講演者 加藤 好郎 氏 (慶應義塾大学三田メディアセンター事務長)
テーマ 図書館経営からみたリスクマネジメント(危機管理)
講義内容

1. はじめに
リスクマネジメントの必要性 大学構成員以外の利用・セキュリティー・専任職員不在・業者倒産・利用者のレベル低下 などによる
2. 最近の出版物
危機管理の手引書、図書館の問題利用者:前向きに対応するためのハンドブック など
3. 米国におけるリスク回避の歴史
BDSの普及 閉架から開架への移行=中に入ったら自由にしてあげる
地域開放 どんな人が来館するかわからない。こちらの価値観が通じないことも。ホームレスの問題。
古書店との協力 図書館が作成した紛失図書リストを古書店が不振本を検索。
経営論としてのマネジメント。リスクの確認 測定 処理手段の選択 処理手段の実施 統制
4. 日本での危機管理
主に紛失図書や防災関係への関心が向けられる。問題利用者に対する対応。
危機管理としての理論構築が完成していない。
5. 問題処理からみたリスクマネジメント
管理運営担当 : 庶務関連、人事関連、会計関連、施設関連
テクニカル・サービス : 収書担当、選書担当、目録担当、システム担当
パブリック・サービス : レファレンス担当、雑誌担当、閲覧担当、貴重書室担当
6. 図書に対するリスクマネジメント
資料の劣化 : 生物的要因、科学的要因、物理的要因
7. セキュリティー関連事例
図書館資料の盗難 機器紛失を含む。
問題利用者 どこからが問題なのかの正当な理由を明確にする必要がある=リスクマネジメント
8. 西ケンタッキー大学図書館利用者サービス方針書
ガイドラインとして、許容できない利用者には退館通告をする。
9. 公共図書館における問題利用者の代表的行動
第3級(はた迷惑 迷惑だが無害) 第2級(微妙な 深刻ではあるが) 第1級(非常に深刻)
10. 危機・安全管理のマニュアルの作り方
リスクマップ(強度と頻度に分類する)の作成
保有、制御、転嫁、回避
11. さいごに
危機管理とは起こったことに対して、どう対応したかが評価の分かれ目となる。